

氏名	ながさわ さちこ 長沢 幸子
学位(専攻分野)	博士(学術)
学位記番号	博甲第685号
学位授与の日付	平成25年9月25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
研究科・専攻	工芸科学研究科 先端ファッション科学専攻
学位論文題目	ファッションイラストレーションの表現描法の多面的研究
審査委員	(主査)教授 森本一成 教授 鋤柄佐千子 教授 並木誠士

論文内容の要旨

ファッションデザインの際に、ファッションのイメージを最初に形にして描いたものが、被服設計用ファッションイラストレーション、すなわちファッションデザイン画であるが、日本の服装学部系の大学や専門学校を中心に教授されているファッションイラストレーションは、被服制作目的で描かれるこの被服設計用ファッションイラストレーションを中心として発展してきた。しかし、ファッションデザイン画とそれを基に制作された被服作品との間の印象の違いが非常に大きいという問題は20世紀から現在まで何度も繰り返し指摘されてきた。このため申請者は、ファッションイラストレーションの表現描法について多面的な研究を行い、被服をイメージに近い形で作れる設計図を描くための新たな描法の開発と、描き手に内在するファッションイメージをより表現しやすい描法の開発を行い、その有用性を検証している。

第1章では、研究の背景と目的を述べている。

第2章では、ファッションイラストレーションの定義に基づいて、その分類を行っている。

ファッションイラストレーションは、応用芸術として分類されるイラストレーションとしてファッションを表現するという性質上、様々な分野においてその調査研究が行われているが、これまでファッションイラストレーションの視点から分野を横断して検討した例はなかった。

第3章では、日本での情報伝達用ファッションイラストレーションの変遷について考察している。次に第4章では、被服設計用ファッションイラストレーションの変遷について考察している。さらに、第5章ではファッションイラストレーションの従来の描法について検討を行っている。これらの考察と検討の結果、過去から現在まで継続している描法、最近になって発生した描法、過去には隆盛していたが現在は衰退している描法、およびこれから開発することが望ましい描法の存在を明らかにしている。これらの知見等に基づいて新たな描法の開発に結びつけている。

第6章では、情報伝達用ファッションイラストレーションにおける新描法を開発している。ファッションイラストレーションの表現の要は、美しさ、軽快さおよび新鮮さであるが、美しくても皮相的な印象表現になりやすいという危険が常につきまとうという問題を抱えている。これを解決するために、作品制作を行う際に大切な初期イメージの鮮度を保ったまま、また、作者の抱くイメージをより表現できる一手法として、水墨画の描法を取り入れたファッションイラストレーション新描法の理論を構築している。そして、実際にそれに基づく作例を試作し、作例から受ける印象の定量的評価による描法の検証、ならびに作品の制作発表を行っている。

第7章では、被服設計用ファッションイラストレーションにおける新描法を開発を行っている。被服造形の平面作図に近い手法で描ける意匠図の新作画システム(意匠図原型作画方式)を提案し、より正確な被服の設計図が描けることを検証している。また、被服設計用ファッションイラ

ストレーションの描画に取り組み易くするために、漫画をファッションデザイン画教育に取り込んで活用する応用描法の開発も行っており、目、顔幅、プロポーションならびに被服の構造線の描き方がファッションデザイン画らしさと漫画らしさを分ける重要な要素であることを明らかにしている。

第8章では、まとめと今後の課題について述べている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、描き手に内在するイメージが新鮮なうちに、そのイメージをより表現しやすいファッションイラストレーション描法と、イメージに近い被服を制作するための設計図を描きやすいファッションイラストレーション描法を開発し、これら新描法の有用性を評価した。これまでファッションデザイン画とそれを基に制作された被服作品とでは、それらから受ける印象の違いが大きいため、被服設計用ファッションイラストレーションの新描法の開発が求められていた。申請者はこの問題に取り組み、ファッションイラストレーションの変遷に関する考察結果などから発想した、水墨画の描法を取り入れたファッションイラストレーション新描法を開発した。たとえば水墨画の描法で創り出される暈しは、ファッションイラストレーションの表現の要である、美しさ、軽快さおよび新鮮さの前提の上に、初期イメージの鮮度の保持と深い感性表現を実現する一手法として、可能性を秘めた描法であることを明らかにした。描き手に内在するイメージを新鮮なうちにより的確に正確に描くための一手法として水墨画の描法をファッションイラストレーションに全体的に取り入れて、なおかつ系統立ててその効果を検証した例は初めてであり高い評価に値する。また、被服設計用ファッションイラストレーションに関する新描法に関しては、意匠図の新作画システム（意匠図原型作画方式）を開発し、その一環としてリアルプロポーション、意匠図基本プロポーションおよび意匠図原型を作成し、その有用性を実証し提案した。これは被服造形の教育において人体寸法より起こした被服原型から平面作図に至る一連のシステムに対応するものであり、被服設計用ファッションイラストレーションの発展に大きく貢献するものである。以上のように申請者の研究は、描き手の抱くイメージを新鮮なうちにより表現しやすいファッションイラストレーション描法と被服設計用ファッションイラストレーション描法を開発し、適切な検証を通してそれらの有用性を示しており高く評価できる。

本論文は申請者を筆頭とするレフリー制度のある3編の学術雑誌論文と1編の国際会議発表論文を基に構成されている。なお、本研究に関連する業績として著書1編がある。

1. 長沢幸子、森本一成：水墨画描法の活用によるファッションイラストレーション新描法の創造、デザイン学研究作品集、Vol. 17、No. 17、日本デザイン学会誌、pp. 56-59 (2012)
2. Sachiko Nagasawa, Shin'ya Nagasawa and Kazunari Morimoto: Creation of New Fashion Illustration Painting Techniques by Use of India-ink Painting Techniques: Research into Line Drawing Techniques of Expression in Fashion Illustrations, Design Creativity 2010, pp. 249-256, Springer (2010)
3. 長沢幸子、長沢伸也：漫画の人物表現のファッションデザイン画教育への活用、デザイン学研究、Vol. 54、No. 5、pp. 19-28 (2008)
4. 長沢幸子、長沢伸也：ファッションデザイン画における意匠図原型作画方式の提案、デザイン学研究、Vol. 48、No. 4、pp. 157-166 (2001)

5. 著書) 長沢幸子：ファッションイラストレーション クロニクル、角川学芸出版（2011）